

緑の風

JR東労組
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2022年8月12日 No.25



日航機墜落事故から37年

1985年8月12日、帰省する方々などを乗せた日本航空123便が群馬県の「御巣鷹の尾根」に墜落、520名もの方々が亡くなりました。

事故から37年、犠牲者のご遺族が高齢となる中、日本航空の社内でも事故を知る社員の多くが定年を迎える時期となっており、事故の教訓を次の世代にどう伝えていくかが課題であるとされています。

一方、JR東日本グループではどうでしょうか。激甚化する自然災害、要員不足、主たる業務に加えて委員会活動等に追われて疲弊している現実、異動への不安など、様々なリスクが高まっていると言わざるを得ません。

経験年数や教育訓練、職場環境や休養時間の確保など、様々な観点で職場を検証し、安全な鉄道・バスを創り出すために議論を深めましょう。

JR東労組の安全哲学「責任追及から原因究明へ」を原点に、議論を深めよう！